

京都大学の強靱なガバナンス

ガバナンス体制の強化を担う京大版プロボスト制の導入

国立大学におけるガバナンス改革の取組としては、一般的にまず学長のリーダーシップ確立が挙げられるが、**10学部、18大学院研究科、20附置研究所・センター、1附属病院から成る京都大学の運営においては、大学本部と各部局との調整が重要。**

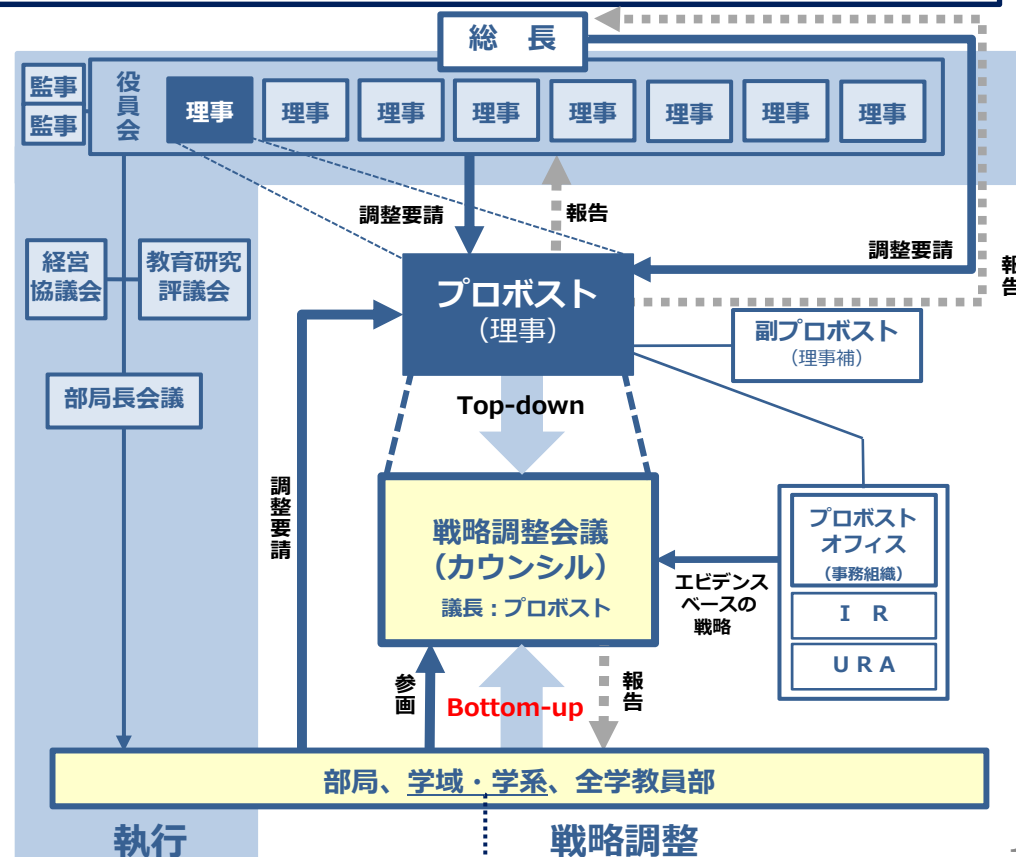
➡**プロボスト制の導入により大学本部と各部局での将来ビジョンの共有と綿密なコミュニケーションを実現**

● ガバナンス体制の強化により指定国立大学法人構想で掲げた構想の着実な推進を実現

- ✓ **次代の大学運営を担う幅広い部局の教員が参画する「戦略調整会議」を設置し、個々の部局の利害を超えた検討を迅速確実に推進。**
- ✓ **本部からのトップダウンの方針と部局からのボトムアップの意思を調整し、多様な部局の自立性を尊重した強力なガバナンスの徹底と迅速な施策執行を実現。**

学域・学系制 (4学域40学系)

教員人事を部局から分離し、透明性と公平性を担保。
既存の部局の枠を超えた新学術分野の創出や機動的で効果的な組織再編を促す人事制度改革



京都大学の強靱なガバナンス



プロボスト・戦略調整会議における主な取組

- 大学の中長期構想や組織改革などの包括的・横断的課題について、戦略を立案。**戦略に基づく施策の迅速な実現を図る体制を整備**
- プロボストを議長とする**戦略調整会議を中心に、指定国立大学法人構想に掲げた大学強化に向けた諸事業を着実に推進**。これまで、教員の業績評価と人事に係る検討、経営基盤強化を見据えた教育研究情報の可視化と学内資源の再配分等の施策を実施
- 更に、「ジェンダー平等の促進策」、「大学院生・若手研究者のリクルーティング促進策」、「教員の事務負担の軽減策」については、方向性を決定し、制度設計に着手
- 第4期に向け、「研究支援体制の再構築」、「情報基盤の整備に関する基本的な方向性」や「事務改革及び職員の人事給与制度の改善」等の検討・学内調整を推進

戦略調整会議の構想を迅速に制度化

- 若手教員ポスト拡充施策
- On-site Laboratoryの制度設計
- 人文・社会科学の未来形発信 → 人と社会の未来研究院（仮称）を設置予定
- 留学生リクルーティングオフィスの制度設計・設置 → 大学院教育支援機構へ発展改組 等

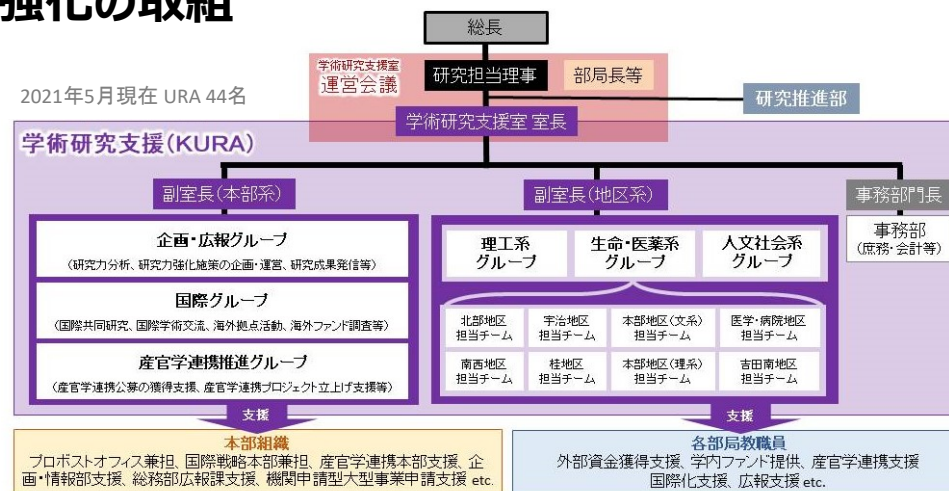
京都大学の強靱なガバナンス

国際的視野によるエビデンスベースの大学運営（URA/IR）

● 学術研究支援室（KURA）による研究力強化の取組

新たな学術領域の創成、国際協働の深化、多様な人材の育成・確保、産官学共創の加速、研究環境の改善・充実等の取組を通じて、**越境する「知」「人」を生み出し循環させる大学を目指す。**

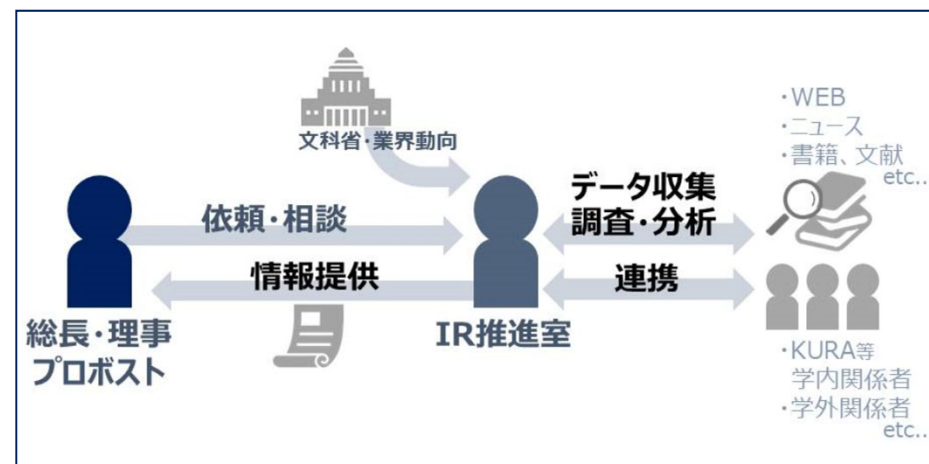
- ✓ 京大オリジナル等の大学子会社や省庁・他機関との人事交流を含むURAのキャリアパス・人事制度確立
- ✓ 財務基盤確保によりURAに係る組織の内在化、無期雇用化の拡大



● エビデンスベースの戦略策定のためのIR部門の強化

執行部が国内外の学術研究動向を的確に把握し、時宜に応じた適切な判断を行うことを補佐するため、プロボストオフィス・国際戦略本部・学術研究支援室等との連携の下、**学内資源及び国際動向の把握とそれらの分析等を行うIR部門の強化。**

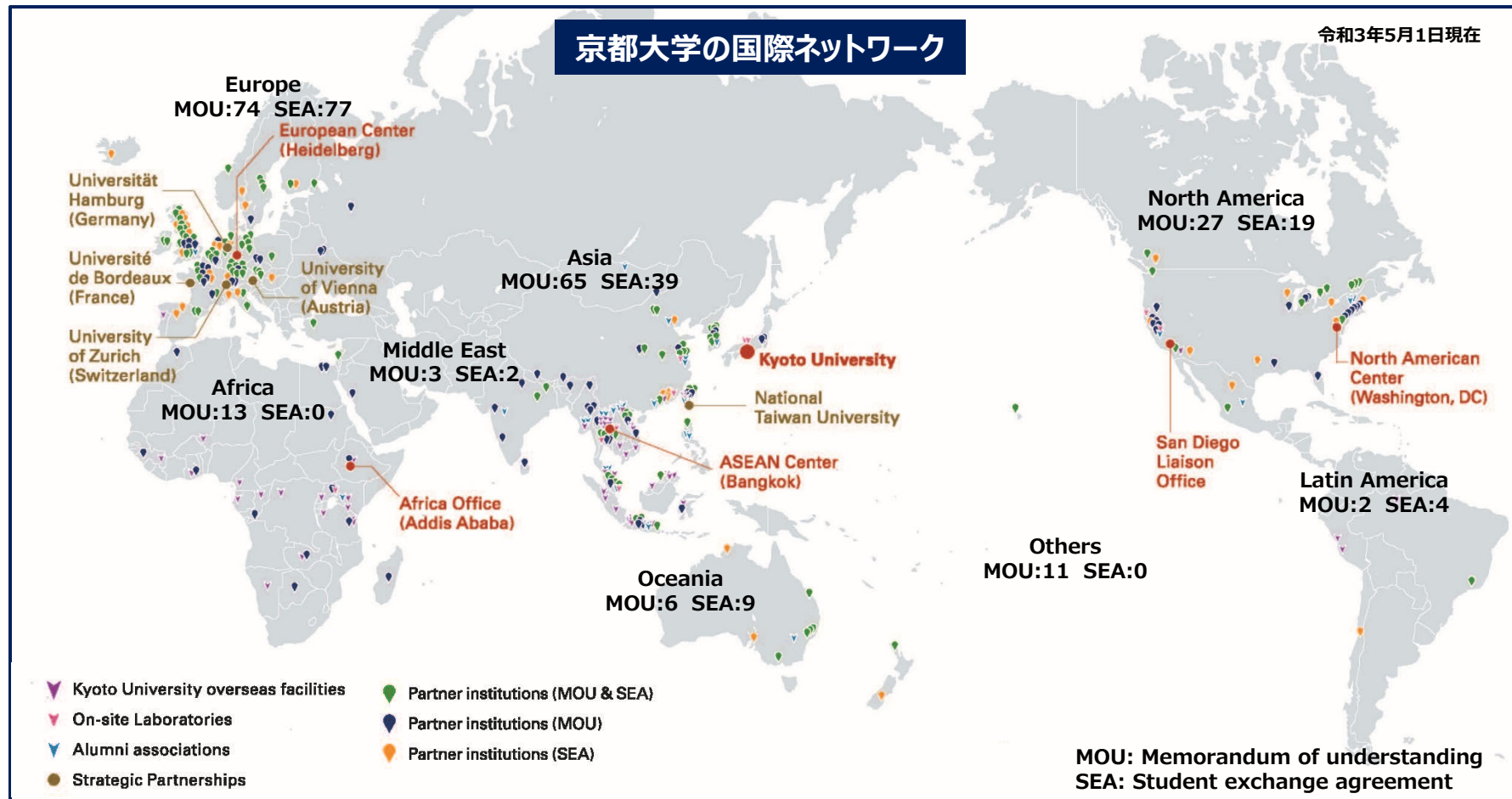
- ✓ 大学運営の意思決定に活用しうる情報をBIツールや分析レポート等により提供
- ✓ 学内基礎データを集約し、データ活用の仕組みを整備



京都大学の研究力強化と国際化

On-site Laboratory

- ✓ 海外の大学、研究機関と共同で設置する現地運営型研究室
- ✓ 海外機関等と活発な研究交流を行い、世界をリードする最先端研究を推進
- ✓ 優秀な外国人留学生の獲得、産業界との連携強化を実現
- ✓ 世界の有力大学に伍して第一線で働けるだけの基盤や体制を強化



海外拠点の戦略的活用と展開

- 55の部局設置拠点とASEAN拠点（バンコク）、欧州拠点（ハイデルベルク）、北米拠点（ワシントンDC/サンディエゴ）の全学海外拠点及びアフリカオフィス（アディスアベバ）を軸に各地域における研究活動支援、教育活動支援、国際化支援、ネットワーク形成に活用
 - ➡ 部局設置拠点との有機的な連携を行い、海外機関等との協働のハブとして活用
国際共同研究と教育の国際化を一層推進
- 海外拠点を通じて収集した各地域の高等教育にかかる国際的な情報を基に海外動向レポートを作成し、国際化にかかる大学の意思決定に活用
 - ➡ 戦略的パートナーシップを活用した新たな学術分野での共同研究や人材の流動性の発展
国際アドミッション支援オフィスによる優秀な外国人留学生招致活動の展開
- 海外拠点を軸に本学海外同窓会ネットワークのさらなる強化
 - ➡ 同窓会と連携した本学研究成果の現地社会への還元
外国人留学生獲得のための戦略的かつ積極的な広報及び誘致活動
京都大学基金への寄附のプロモーション推進

高度で多様な頭脳循環の形成



Kyoto iUP (KYOTO UNIVERSITY International Undergraduate Program)



- 世界各国のトップ高校を中心に広報・リクルート活動を展開し最優秀層の学部留学生を受入
- 入学時の日本語能力を問わず、入学後の徹底した日本語教育を経て、日本語による専門教育の実施
- 日本人学生と共に受講する科目を創設し、留学生・日本人学生が相乗効果により国際性を高め合えるキャンパス環境を実現
- 企業等の参加を得てKyoto iUP留学生育成コンソーシアムを設立し、将来の日本社会を国内外から支えてくれる高度外国人材を共同で育成
- 日本企業等でのインターンシップを必修化し、卒業後も日本企業・社会への定着を促進
- 新型コロナウイルスの影響で渡日できない学生のため、全学的なオンライン授業等への移行を進め、対面授業とオンライン授業のハイブリット形式を取り入れた

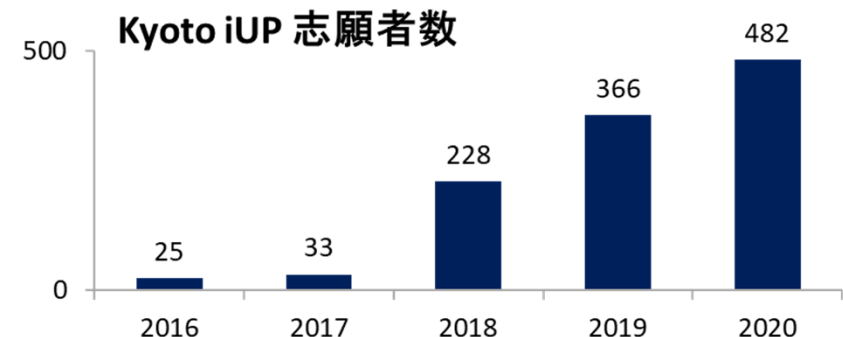


シンガポールにおける説明会の様子



台湾における説明会の様子

Kyoto iUP : Kyoto University International Undergraduate Program



➡ **1学年最大80名・合計320名程度の優秀な留学生の学部受け入れを目指す**

高度で多様な頭脳循環の形成



IAAO (International Admissions Assistance Office/国際アドミッション支援オフィス)

- 各国の教育事情等の調査分析を基にした、優秀な留学生獲得のための広報・誘致活動の戦略策定
- 全学海外拠点や地域同窓会等を活用し、重点対象地域を中心に**大学院留学生リクルート**活動を支援

GSTセンター (Graduate Student Trainingセンター)

- 大学院生の教育研究能力向上のための全学研修体制を構築するため、戦略調整会議にて設置を提案
- 教育担当副学長の下にGST推進室を設置し、基礎的な研修プログラム開発に着手



大学院教育支援機構の設置

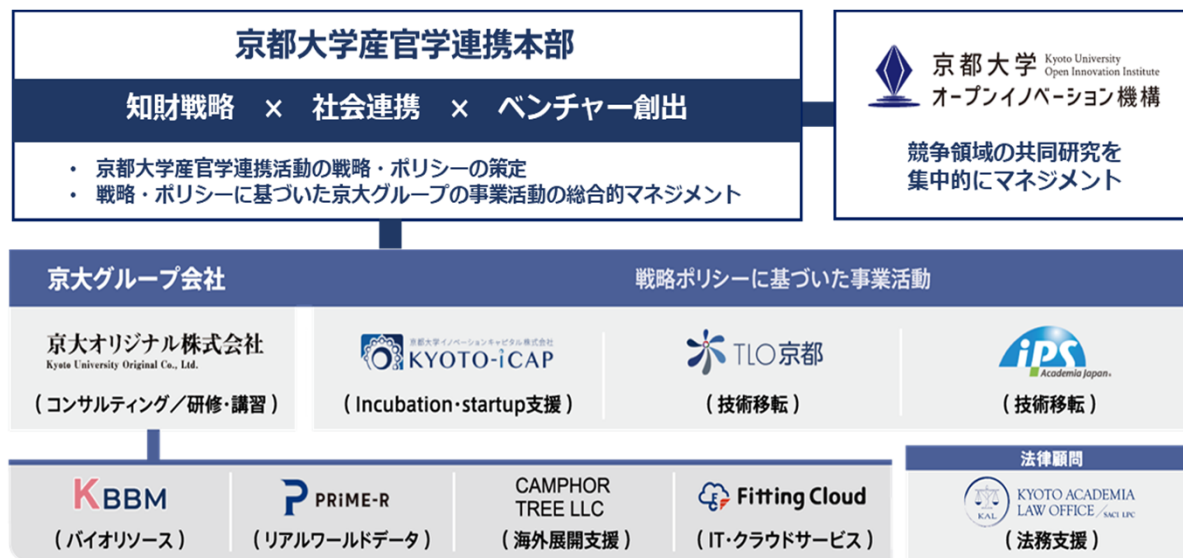
- IAAO及びGST推進室で実施・推進してきた大学院生教育及び留学生にかかる支援業務を取り込んだ組織として、令和3年10月に「**大学院教育支援機構**」を設置
- 大学院における共通教育システムとキャリア形成支援策を一体的に企画及び実施できる体制を整備
- 研究科等が担う研究者養成及び高度専門職業人養成の機能を充実強化するための支援を行う

機構における主な取組

- ✓ 大学院生に対する経済支援の拡充
- ✓ 優秀な留学生の獲得
- ✓ キャリア形成及び産学連携活動に資する教育機会の提供 等

京都大学の社会との連携

産学連携の新しい京大モデル



- 「京大オリジナル（コンサルティング、研修・講習）」「京都大学イノベーションキャピタル（ベンチャー支援）」「TLO京都（技術移転）」「iPSアカデミアジャパン（技術移転）」の機能別事業会社を運営する産官学連携の新しい「京大モデル」を構築し、産学連携バリューチェーンを創出
- これら事業会社を有機的に連携させながら、本学の理念や方針と、効率的運営を確保するための自立性とを両立させた「京大収益事業」を一体的に展開する

京大オリジナルを活用した新たな連携

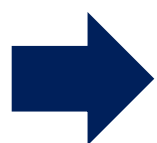
- 「京大オリジナル株式会社」の下に米国法人「**CAMPHOR TREE LLC**」(Limited Liability Corporation) を設置
- On-site Laboratory「京都大学サンディエゴ研究施設」を中心として、医学・生命領域の先端的な医薬品シーズ等を産業界と連携させ、研究成果の社会実装への貢献を展開するにあたり、国際リスク管理・円滑な業務遂行の観点から支援
- 今後は、北米地域における研究連携に加え、学生交流や若手研究者の交流推進、国際共同研究の創発・産学連携等、支援可能な分野を拡大



「京都大学ライフサイエンスショーケース @UCSD 2020」の様子

人文・社会科学の未来形発信

- 国際化の推進、文理融合による新学術領域の創成し、世界へ向けて発信
- 人文・社会科学分野の発信方策に関する指針として「『人文知の未来形発信』に向けて」を策定
- 人社系部局を横断する「人社未来形発信ユニット」を設置し、産業界を中心に社会との連携強化に向け、オンライン連続公開講座などを実施



取組を発展させるため、「こころの未来研究センター」と「人社未来形発信ユニット」を廃止し、全学の人文・社会科学分野への組織的・体系的な支援を担う組織として「**人と社会の未来研究院（仮称）**」を設置予定

新たな取組

こころの未来研究センター

心理学、認知科学、認知神経科学、公共政策、美学・芸術学、仏教学など「こころ」に関わる多彩な専門分野の研究者が集い、研究や教育、実践に取り組み、その成果を広く社会に発信

人社未来形発信ユニット

京都大学の人文・社会科学に関わるさまざまな研究科、研究所、センターが連携して運営

学術研究支援室 KURA

URAが所属し、本補助金に加え、間接経費等の資源を投入して活動中

発展的組織消滅

人と社会の未来研究院（仮称）

人社系の学際的プロジェクトの推進により文理融合を含む異分野間交流を促進し、既存の知を越えた人文社会科学の「未来形の発信」と新学術領域の創成を行う

センター長

URA室

- ・ URAが教員と共にチームを編成し、一体的に支援活動を実施
- ・ KURAに本籍を置く人社系URAを拡充しつつ、OJTにより人社系URAの高度化を実現

人社系URA配置

ノウハウをKURAに還元

学術研究支援センター（仮称） KURA

戦略調整会議の提言に基づき体制強化・機能拡充
人社系URAは人と社会の未来研究院兼任とし、同院の教員と共に日常的な支援業務を実施

✓ これまでの成果を踏まえ、人文・社会科学やその学際研究の発展を図る

✓ 自然科学をはじめとする本学の多様な分野の研究に人文・社会科学の知見をもって貢献することを目指す

自己収入の拡大



寄附受入体制の構築

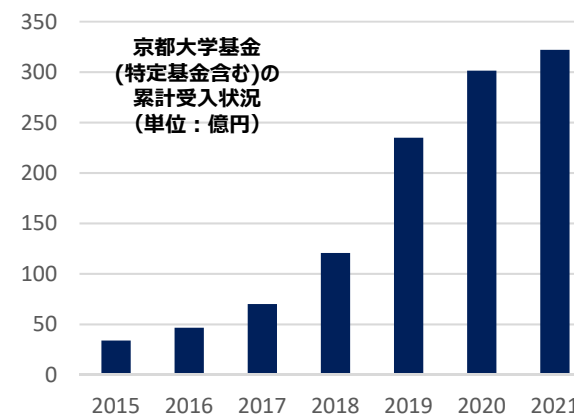
- 国立大学改革強化促進補助金の一部を活用し、主に金融機関における営業等の経歴を持つファンドレイザーを採用するなど、基金室を拡充・機能強化
- 基金室を中心に、役員が先頭に立って大手企業、本学OBの起業家や企業役員、国内外の同窓会等に対する京都大学基金への寄附のプロモーションを強力に推進
- 令和3年10月末時点における累計受入額は、本事業開始時から約252億円増加
- 若手研究者助成を目的とした基金等、学術活動に基づく一般寄附受入も順調に推移しており、今後は、令和4年6月に迎える本学125周年に向けて、寄附募集活動の総括・検証を実施
- 新型コロナウイルスに対する研究活動への寄附を受入れた他、優秀な学生への支援等、本学の教育研究活動に活用

中長期的に基金規模を拡大していくための施策

- ✓ 卒業生情報の一元管理による寄附者の開拓促進
- ✓ 起業家からの遺贈を含む有価証券の寄附受入



京都大学基金の募集について（HPより）



京都大学のさらなる発展に向けて



世界に伍する研究大学を目指して

教育と学生支援

- 多様な入学者の確保とその育成のため、学生の生活支援と福利厚生の上昇、学生の希望と時代のニーズに対応した教育内容・体制の改善

教員の研究活動支援

- 国内外の若手・女性を含む多様で卓越した研究者人材の獲得、及びそのために教員が十分に教育・研究活動に専念できる環境の整備

業務運営体制の改善

- コンプライアンスに最大限の配慮をしつつ効果的で機能的な教務運営を行うために、事務組織や雇用体系の抜本的改善と事務職員の政策立案能力向上に向けての取組を進め、全体として非効率経費を削減

ガバナンスと財務基盤の強化

- プロボスト制を最大限活用し、将来構想等に関わる重要施策について具体的提言を行い、総長のリーダーシップ強化に資する
- 寄附受入の拡大により財務基盤の強化を図るとともに、学内資金の戦略的配分に努める